



# 大すきいっぱい西北の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和7年7月16日  
長崎市立西北小学校  
文責：校長 江原芳樹  
R7年度 第4号

今週で1学期が終わり、いよいよ夏休みが始まります。子どもにとって夏休みは格別です。日頃の学校生活ではできない、様々な体験や気づきがあります。子どもの健全育成には欠くことのできない大切な時間です。と同時に、様々な危険に出会うときでもあります。

夏休みという子どもにとっての宝物の時間を安全・安心に過ごすことができるよう、私たち周りの大人が見守り続けることのできる環境を大切にしたいと強く願います。

8月9日の登校日、また元気な姿で会いたいと思います。

## 夏休みの3つの視点

夏休みは、学校生活と異なり、自分で自分の生活を整えていかなければなりません。決まった時間に、決められたことが準備されているわけではないからです。**夏休みは「自分づくり」の最大の機会**だと捉え、次のことに取り組んでほしいと考えています。

### ① 家庭の一員として、役割のある生活を過ごしてほしい。

子どもに「お手伝い」ではなく、「仕事」として任せるものをもたせてください。すでにもっているご家庭は、夏休み期間は少しレベルの高い仕事を任せてみてください。大切なことは、「任せる」こと。失敗や不十分さにも責任をもたせることです。

### ② 学校で学習したことを生活の中で生かしてほしい。

学校では教科書を中心に学習をすすめますが、本質的な学習は、いつも生活の中にあります。紙面上の学習で終わることなく、学習が生活場面で「使える学び」となるためにも、夏休みは大切な期間です。「わかる」が、「できる」へと発展する夏休みを期待しています。



### ③ 日頃できないことに挑戦してほしい。

「長編の本を読破する」「いつも疑問だったことを解決する」「2週間かけて〇〇に取り組む」など、時間をかけて取り組むことができるのが夏休みです。結果や成果を求めるのではなく、挑戦することに大きな価値があります。

学校から出される夏休みの課題をしっかりと終わらせることも大切ですが、「夏休みならではの」「夏休みだからできること」を自ら計画し、やってみることも大切です。3～6年生は、タブレット内に家庭学習デザイン表をもたせています。課題だけではなく、自分で自分の学習を構成(デザイン)していく力も高める機会としたいと思います。

夏休み前に、ご家庭でも夏休みの過ごし方、学習の仕方について、子どもたちと話し合う時間を設けてほしいと思います。



## いじめとメディア依存を考える

教育週間の土曜授業の日、4～6年生は体育館で縦割り班をつくり、「いじめ防止」と「メディア依存防止」について、宣言文づくりに取り組みました。「いじめをしてはいけないこと」、「メディアに時間をかけないこと」は、頭では分かっています。とはいえ、分かっていることが「なくなる」「できない」ということも事実です。

こうした機会に、多くの仲間と時間と場を共有しながら考えることには大きな意味があると考えています。今回も6年生を中心に、課題の背景について考え、自分たちの行動宣言文をつくりました。児童玄関に24班の宣言文がありますので、学校にお越しの際はぜひ見てほしいと思います。

子どもたちの宣言文に見られたキーワードを紹介します。

### 【いじめ〇（ゼロ）に向けた宣言文】

- 面白がったり、見て見ぬふりしたりせず、話し合います。
- 被害者の気持ちを理解し、傍観者をなくします。
- いじめをなくして、相手の気持ちを考えて行動します。
- いじめを見たら、大人に相談したり、止めたりします。

### 【メディア依存にならないための宣言文】

- ルールや時間を決めたり家族話し合いをしたりします。
- 時間を守り、優先順位を考えてメディアと付き合います。
- 使わない日や時間をつくって、メディアを使用します。
- 親とルールを決めてメディアを使用します。

特にメディアに関することは、家庭での時間が多くなります。夏休み前に、もう一度ご家庭でも話題にしてほしいと思います。



## 《校長散歩道 No.23》

人類学・霊長類学者の山極壽一氏は、「ゴリラの研究から見える人間の本質とは？」の問いに、次のように答えています。

「ゴリラは目の前で起こっていることにしか真実はありません。だから、群れから離れてしまった個体は存在していないことと同じになります。つまり、ゴリラには、一緒にいることが仲間関係を持続するために必要なのです。一方で、人間は一緒にいなくても仲間関係を維持することができます。共同体から離れて散らばったり、時を経て集まったりすることが普通に出来る訳です。そして、いないときも、その仲間のことを考えています。それが人間の社会力であり、ゴリラとの大きな違いです。人間が何年間も会わなくても友達であり続けられるのは、不在の間を想像する共感力をもっているからです。それが人間の強さでもあると思います。」

今は、世界のリーダーでさえ、自国ファーストを他国に押し付け、自己の利益に終始している風潮が感じられます。こんな時代だからこそ、今目の前に存在しない人に対しても想像力を働かせ、共感できる力が、人間としての強みであることを確認したいと強く思います。

学校においても、集団の中でうまく生活できず、苦しんでいる仲間にとっと寄り添い、声をかけている子どもに出会うことがあります。私よりも素晴らしい共感力を身に付け、相手の状態を想像できる力に「かなわない」と思わされています。何より憧れるのは、そうした子どもが人としてとても心豊かであるように見えることです。年齢は関係がありません。